

中学校区におけるめざす子ども像
 「人から信頼され、何事も徹底してやりぬくたくましい子」の実現へ向けて
 ・小中をつなぐ学力を身につける。
 ・自信をもって、主体的に行動する。

校長 阪本 拓也

令和2年度 重点目標「確かな学力、豊かな心、健やかな身体の調和のとれた児童の育成」
 ①「文武両道」を目指して —「勉強と運動」にしっかり取り組ませる。
 ②「思いやり・やさしさ」を目指して —「あったかい気持ち」を持った子どもを育てる。
 ③「ABC作戦」の実践 — A:あいさつ、B:ベル着(チャイム着席)、C:クリーン(掃除)を実践させる。

<p>「確かな学び」の現状 昨年度に引き続き、静謐な雰囲気の中、子どもたちが真剣に学習に取り組む学習環境づくりを進めたい。堺市「子どもがのびる」学びの診断結果からも、多くの項目で、昨年度と同様の頑張りを見ることができている。 算数科では、計算領域において、朝の学習での取り組みが少しずつ成果を見せ始めている。一方で、高学年になるにつれ、文章問題を苦手としている子どもが増えている。国語科では、読む領域においてどの学年でも、堺市平均を上回っており、校内研修で系統的な読みの指導などに少しずつ取り組んできた成果が見られる。しかしながら、すべての学年で、漢字・言葉の領域に課題が見られ、反復練習を更に取り組んでいく必要がある。これまで以上に学びに向かう姿勢をいかに育成できるかが、本年度の課題ととらえている。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状 学習の時間や休み時間の様子を見ると、年々本校の重点目標の一つである「思いやり・やさしさ」を感じる言動が増えてきている一方、教育アンケートの結果からは「言葉でからかわれた」「人に対してきつい言葉をいった」などの項目が依然として1割程度あることが課題となっている。休み時間や体育時の児童の様子から、体を動かすことが好きな児童は、年々、増えてきている。それは、全校児童で行うかけ足月間やなわとび月間など体育的行事に取り組んできた結果、日常でも多様な動きが増えてきたのではないかと考えている。また、体力テストの結果では、握力・上体起こし・長座体前屈・20mシャトルラン・50m走などが全国平均を上回っている一方で、立ち幅跳び・ソフトボール投げなどは課題であるため、克服に向けて取り組みたい。</p>
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認	達成状況(年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	基礎基本の定着	「話し方」「聞き方」「ノート」名人の更なる活用。	○「聞き方」に関しては、クラスの実態に応じて、 ・なぜ「聞く」ことが大切なのか ・どのように聞くのがよいのか(聞き方の中身) ・聞きやすくなるための工夫をどのようにするのか(机配置:コの字型など) などを、クラス児童としっかりと話し合い、合意形成する中で、聞く力の育成に努める。 ●学習過程がわかる板書づくりを通して、児童自身がわかりやすいノートづくりをめざす。	学習のふり返りアンケートで各項目において80%以上の肯定的評価。	学習のふり返りアンケート	毎学期				
		『「家庭版」学びの手引き』の活用	○家庭学習の充実を図るために、『「家庭版」学びの手引き』を活用して、児童や保護者への啓発を定期的に行い、家庭学習の充実をめざす。							
		算数科における少人数指導の充実	○5・6年生算数科において、担任と少人数担当教員による少人数指導を行い、個に応じたきめこまやかな指導をめざす。	小人数指導アンケートで80%以上の肯定的評価。	少人数指導アンケート					
		自主学習ノートの活用推進	●全学年で活用している自主学習ノートを推進することで家庭学習の充実を図る。	教育アンケートで80%以上の肯定的評価。	教育アンケート	年度末				
授業改善		授業前後のあいさつと教室環境整備の徹底	○授業開始前と後に号令をかけ、しっかりとあいさつをし、授業に対する集中力を高める。 ○授業前に教室内の机を列ごとに揃え、ごみを拾う。常に環境整備に全員で努める。	教育アンケートで80%以上の肯定的評価。	教育アンケート	年度末				
		すべての子どもが「わかる」「できる」授業づくりの実践(全教科を通して)。	●主体的・対話的で深い学びにより、児童が意欲的に学習に取り組めるようをめざす。 ・各授業の「目的」「内容」「方法」、各領域内における系統性を明確にした授業づくり。 ・ペア・グループ学習の積極的な活用。	各学年において研究授業を実施。	事後討議会	毎月				
		書く活動を通じた思考力・判断力・表現力の育成。	●教科横断的な各教科の見方・考え方を働かせた授業づくりにより、「書く力」の育成をめざす。 ○学習のふり返り(感想文)の活用。 ・ふり返りの評価方法 ・ふり返りの授業における活用の手立て	各学年において研究授業を実施。	事後討議会	毎月				

豊かな心・健やかな体	人権教育の充実	人権についての認識と理解を深め、豊かな人権感覚をもって行動する子どもを育成する。	○人権教育の研究授業を実施する。研究授業を核とし、校内人権教育の充実を図る。 ●なかよし活動を通じて、互いに協力し合える仲間づくりを進める。 ★子ども理解に基づく指導及び、予防と育成に重点をおいた生徒指導の充実を進め、いじめを防止する。	人権教育の研究授業を実施。	事後討議会	研究授業時						
		持久力・瞬発力などの向上	○持久走記録会を目標とし、全校かけ足月間での校内での取り組みの更なる充実を図る。 ●なわとび検定を目標とし、なわとび月間での校内での取り組みの更なる充実を図る。	持久走記録会でのタイムを前年度と比較する。	持久走記録会	持久走記録会後						
		泳法の習得・泳力の向上	○1～6年生まで系統立てた指導を行い、取り組みの充実を図る。	学習開始時と学習終了時の泳法の習得率や泳力を比較する。	水泳学習	水泳学習後						
地域協働	信頼される学校づくり	静謐な教育環境で「総合的な学力」を育み、地域とともに歩むチーム学校づくりを進める。	○あらゆる教育活動の場で、自尊感情を醸成し、わかりやすい授業と自己実現を支援する授業・学級経営に取り組む。 ●学校ホームページ、校報などを活用し、教育活動の現状と成果の発信や、地域行事への積極的な参加に努める。	教育アンケートの項目において昨年度を上回ったり、ABC作戦の達成状況を確認したりする。	教育アンケート 実践報告	年度末						
			学校ホームページを毎日更新したり、地域行事への参加状況を確認したりする。	実践報告	毎月							
校長より(年度末)							学校関係者評価者から(年度末)					